

(株)ハセガワエステ

もう一人の自分を見つけ、 自身の計り知れない許容量を知る 自分スイッチ



代表取締役会長 長谷川卓史氏



“自分を変えたい”“今の生活を変えたい”など、こうなりたい、という具体的な像はないものの、変身願望を多くの人々が持っている。日常生活のマンネリ化や社内的ないじめや孤独感など、他人には分からない悩みを抱えている人が多いからだろう。そんな悩みを解決する策を自らの体験で編み出したのがハセガワエステ、長谷川卓史会長であり、もう一人の自分だった“お福”だった。

婚礼司会事業・ハセガワエステ(東京都港区)を指揮する長谷川卓史会長は、自分を変えたいという願いを実現化させるスイッチを、自らの体験を通じて見つけ出した。

今から約20年前、家業である家具店は大型家具店の相次ぐ開店で経営的に危機的な状況にあった。大学卒業後、家業の跡継ぎとして経営に携わる中、苦悩する日々が続いた。そんな時、気分転換に和装を着て女装して街を歩いたり、電車に乗った。すると、その滑稽で、どこことなく親しみを感じさせる雰囲気、自然と周りに人が集まり、その顔を見ると皆、笑顔であふれていた。中には自分の悩みを相談する人もいた。

「それまでは長谷川という自分の世界の中しか見えず、自分だけが苦勞

していると思っていました。ところが、私以上にもっと苦勞している方がいることを知り、自分の悩んでいることはたいしたことではない、とふっ切れたのです」(長谷川会長)。

つまり長谷川卓史にはもう一人の長谷川卓史が存在し、日常の長谷川卓史ではギリギリなことも、もう一人の長谷川卓史の存在を知ったことで、物事を受け入れる許容量が増えたというわけだ。婚礼司会者としての長谷川卓史も、皆を幸せにするための「お福」も合わせてすべてが長谷川卓史という人間であるということだ。

「私はたまたまお福に変身しましたが、変身しなくても自分を変えられるスイッチはいれることができます。たとえば、自宅から会社までの通勤

の間でもできます。“そうだ、今日は『元気なミドリちゃん』で歩いてみよう”と思えば良いのです。そうすると、他人からは分かりませんが、自分は元気なミドリちゃんです。普段はしない駅員さんへのあいさつをしてみたり、元気なミドリちゃんだから、横断歩道を走ってみよう! と、自分を簡単に変えることができます。普段ではできなかった自分が、ミドリちゃんになるとできてしまうこともあるでしょう。これが潜在的にあるもう一人の自分を見つけることになるのです」(長谷川会長)。

自分は生涯、自分しかいない。だからこそ、自分の可能性を自分でみだし、自分とともに生き、自分らしく年を重ねるためにも、自分を変えるスイッチは必要だ。精神的に病んでいる人口が増え、企業のメンタルケアへの強化が政府より指導されている中、長谷川卓史式、自分スイッチは試してみる価値があるだろう。